

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 16 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380644

研究課題名(和文)1960年代サークル文化運動の歴史社会学的研究：高度成長下での持続と衰退の諸要因

研究課題名(英文) A Historical Sociological Study of the 1960s Circle Movements: Various Factors Contributing to Their Sustainability and Decline during the Period of High Economic Development.

研究代表者

道場 親信 (MICHIBA, Chikanobu)

和光大学・現代人間学部・准教授

研究者番号：60287951

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：課題に関し、名古屋の「とけいだい」や青森の「大理石」は労働組合との安定した関係と一貫したキーパーソンの存在がサークルの存続を可能にし、広島「われらのうた」では、半ば同人集団化していくことで持続可能となったことがわかった。また思想の科学サークル戦後史研究会での議論を通じ、60年以後にサークルを研究するサークルとして設立された「集団の会」がもつ意味を掘り下げることができた。故浜賀知彦氏、故村田久氏、故五味正彦氏の旧蔵資料の整理に関わり、資料の保存を進めることができた。思想の科学研究会所蔵の6ミリテープのデジタル化も完了できた。このほかいくつかの資料寄贈を受け、インタビュー調査を実施した。

研究成果の概要(英文)：In relation to the topic, the current research has discovered that the sustainability of such circles as Tokeidai in Nagoya and Dairiseki in Aomori was made possible by their stable relationship with labor unions and by the consistent presence of key individuals in the circles, whereas Warera no uta in Hiroshima managed to sustain itself as it became a semi-coterie group. This study was also able to more deeply understand the significance of Shudan no kai, which formed as a circle to study post-1960s circles through debates in the postwar history study group of Shiso no kagaku circle. In organizing the documents formerly in the possession of late Hamaga Tomohiko, late Murata Hisashi, late Gomi Masahiko, advances have been made in preserving them. The digitization of 6mm tapes in the possession of Shiso no kagaku study group has been completed as well. Besides these tasks, the researcher has received several donations of documents and conducted research interviews.

研究分野：社会科学

キーワード：サークル 文化運動

1. 研究開始当初の背景

近年、サークル文化運動の研究が文学史・文化史・思想史・歴史学・社会学の領域を横断して活性化している。これらの研究は共通に1950年代のサークル文化運動に注目することで、自発的な文化活動の諸相、同時代の政治(とくに日本共産党)との関わり、高度成長が本格化する以前の労働や生活の場の文化史・社会史的読解を進めてきた。また、これと並行してサークル誌やサークルと関連の深い雑誌の復刻も進められ、多くの場合、雑誌そのものを研究する研究会も立ち上げられて共同研究の形で内容の検討もなされてきた。こうした研究動向の中であって、申請者は文学史や思想史の研究者と力点を異にし、戦後日本における社会運動史の文脈にサークル文化運動を位置づける研究を進めてきた。一方、社会運動史研究においても近年1950-60年代に関する包括的な研究が現れてきているが、これらの研究の多くはサークル文化運動への関心をほとんどもたないが、ごく一部言及があるのみである。

2. 研究の目的

本研究では、以上の研究文脈の中で、1960年代のサークル文化運動に焦点を当て、「衰退期」となる同時期のサークル文化運動の状況を社会運動史の文脈に位置づけることを目的としている。

1960年代という時代について、従来の研究ではそれ以前の時代との断絶と、以後の時代への連続性を強調する傾向が見られたが、地域や産業などの相違により、50年代的な特徴づける諸要素は時差をもって持続したり衰退したりしたと見る方が妥当ではないか。そのような観点からサークル文化運動をとらえるとき、50年代のサークル文化運動を支えた諸要因は、60年代に入ってただ衰滅していったわけではなく、変容し、機能転換していったのだというふうにも考えられる。とすれば、60年代のサークルはそれに対応しえたのか、という点について、活動の持続とその失敗の双方から、50-60年代固有のサークル運動を支えた要因を明らかにすることを研究課題とし、次の4つの作業を設定する。

- (1)具体的なサークルに即した衰退要因と持続要因・持続戦略についてのインタビュー調査
- (2)国民文化会議資料(法政大学大原社会問題研究所所蔵)の調査・分析
- (3)60年代におけるサークル研究として、思想の科学研究会の研究手法と成果の追検証
- (4)60年代サークル文化運動に関連する資料の発掘と電子アーカイブ化、復刻

3. 研究の方法

次のように4つの対象集団・組織を設定し、インタビュー調査、資料調査、電子アーカイブ化、研究者との共同の研究会・ワークショップの開催・参加などを通じて具体的作業を進めた。

- (1)サークル誌『とけいだい』(名古屋市役所文学サークル「とけいだいの会」)

同サークルについては、以前の研究において1950年代の活動を中心に聞き取りを進めているが、

『とけいだい』全号(全212号、1951~72年)の精査をもとに聞き取りと資料のPDF化を進めた。(2)サークル誌『われらのうた』(広島「われらのうたの会」)

同サークルについては、関心を共有する各地の研究者と「われらのうた」研究会」を結成してサークル誌全56号の読解を進め、関係者へのインタビューを行なった。

- (3)国民文化会議

サークル文化運動のナショナルセンターであり、法政大学大原社会問題研究所に寄贈された膨大な資料の読解を進め、サークル文化運動の全国的な状況について検討した。

- (4)思想の科学研究会「集団の会」

サークルの衰退が言われるようになった60年代、1963年に開始されたサークル研究会の会であるが、どうしてこのような時期にサークル研究をしようと考えたのか、同時代の意識と問題関心、研究戦略についての聞き取りを進め、考察をした。

4. 研究成果

3年間の助成を受ける中で、「5. 主な発表論文等」に示した論文や学会・研究会発表などを公にすることができた。60年代の市民運動・住民運動について執筆を求められることが多く、その都度インタビューや資料調査などを経て論文等を執筆した。

全期間を通して原爆文学研究会、戦後文化運動合同研究会、思想の科学サークル戦後史研究会などで研究と議論・交流を深めることができ、とくに戦後文化運動合同研究会では、2013年度の第7回から15年度の第9回まで企画運営に関わり、その都度セッションの司会やコメンテーター、報告等を行なった。思想の科学サークル戦後史研究会も月1回順調に開催し、50年代から80年代に至るサークルの動向を相互に報告・討論し合うことができた。この2つの研究会ではそれぞれ研究成果を「論集」の形でまとめる作業を進めており、本研究課題のテーマである1960年代をサークルがどのようにして経験したか、という問題について議論を深めることができた。両者は2017年中には刊行できる予定である。思想の科学と国民文化会議についての調査は、後者においてまとめる予定である。

調査については、2013~15年度にかけて故村田久氏旧蔵資料の調査(北九州)、故五味正彦氏旧蔵資料の調査(東京、2013年度)、青森銀行労働組合資料の調査(青森、2013年度)、元南部文化集団の浅田石二氏へのインタビュー調査(東京、2014年度)、音楽センター所蔵資料調査(東京、2015年度)などが主な調査となる。青森銀行労働組合関係者への調査の過程では青森職場演劇協議会資料が見られ、かつその寄贈を受けることができた。

資料の整理については、2013~15年度にかけて故浜賀知彦氏旧蔵資料の整理作業(東京)、故五味正彦氏旧蔵資料の整理作業(東京、2013年度)、「とけいだい」資料の整理(2014年度)、思想の科学研究会で保管されていた60年代のサークルを中心とした活動の記録テープ(6ミリ)のデジタル化作業

(東京、2014～15年度、完了などを挙げることができる。このうち、故浜賀知彦氏旧蔵資料のうち、民主主義文学同盟支部機関誌については、早稲田大学の鳥羽耕史氏と共同で整理と目録化を進め、遺族による国会図書館への寄贈をお手伝いした。また同資料のうち残りの部分についてはすべての内容を点検し、複数の旧蔵者から浜賀氏に寄贈された資料の旧蔵者ごとの特徴を調べるとともに、浜賀氏の文章に言及されているながら所在が確認できないものなどを明らかにし、いくつかの重要資料をPDF化した。今後はデータベース化作業が課題である。故村田久氏旧蔵資料に関しては、編集委員の一員として村田久遺稿集編集委員会編『響きあう運動づくりを 村田久遺稿集』(海鳥社、2014年)編集に成果を生かすことができた。故五味正彦氏旧蔵資料については、立教大学共生社会研究センターの平野泉氏ほかと共同作業をして選別・整理をし、遺族による同センターへの資料寄贈をお手伝いした。また、「とけいだい」資料の調査に関連して、ドキュメンタリー映画「日本の保健婦さん」(武宣邦夫・藤崎仁志監督、シネマレスト JAPAN 製作、2014年)における資料調査に協力した。

なお、2015年末から体調を崩し、検査の結果、重篤な病が発見されたため、以後の調査・研究ができなくなり、現在療養に努めているところである。3年間の研究を総括する作業がそのため滞ってしまっているのは残念である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

大木晴子・道場親信「対談・一人ひとりの心に「広場」を！」『図書新聞』第3169号、pp.1-2、査読無、2014年

道場親信「「核」の連鎖・「難死」の連鎖：小田実『HIROSHIMA』を読む」『原爆文学研究』第13号、pp.229-253、査読有、2014年

道場親信「「難死」の思想と現代」『りいど みい』第5号、pp.93-115、査読無、2014年

道場親信「榊原報告・東村報告へのコメント」『クアドランテ』第16号、pp.41-48、査読無、2014年

岩根邦雄・道場親信「『生活クラブ』という生き方の根底にあるもの」『社会運動』第402号、pp.51-55、査読無、2013年

道場親信・「創始者はつねにその組織の中でも異端である」『社会運動』第399号、pp.33-37、査読無、2013年

[学会発表](計4件)

道場親信「基調報告」第9回戦後文化運動合同研究会シンポジウム「サークル誌をどう読むか」(招待講演) 名古屋大学、2015年11月1日

鷺谷花・鳥羽耕史・道場親信「1950年代文化運動と幻灯」原爆の図丸木美術館「1950年代幻灯上映会」トークセッション、原爆の図丸木美術館(招待講演) 2015年4月25日

道場親信「「核」の連鎖・「難死」の連鎖：小田実『HIROSHIMA』を読む」第45回原爆文学研究会(招待講演) 名古屋大学、2014年8月3日

道場親信「榊原報告・東村報告へのコメント」第7回戦後文化運動合同研究会、奈良教育大学、2013年11月2日

[図書](計6件)

杉田敦編『ひとびとの精神史6 日本列島改造 1960年代』岩波書店、2016年(共著、「宮崎省吾 住民自治としての「地域エゴイズム」」担当、pp.69-98)

吉田裕編『岩波講座 日本歴史19 近現代5』岩波書店、2015年(共著、「戦後日本の社会運動」担当、pp.113-148)

テッサ・モーリス-スズキ編『ひとびとの精神史2 朝鮮の戦争 1950年代』岩波書店、2015年(共著、「江島寛 東京南部から東アジアを想像した工作者」担当、pp.45-75)

村田久/村田久遺稿集編集委員会編『響きあう運動づくりを：村田久遺稿集』海鳥社、2014年(共編著、第2章・3章・4章・6章解題担当、pp.36-37、pp.168-170、pp.216-217、pp.320-322、「村田久年譜」担当、pp.1-13、「村田久ミニコミ書誌」担当、pp.14-18)

長田攻一・田所承己編『つながる／つながらないの社会学：個人化する時代のコミュニティのかたち』弘文堂、2014年(共著、「個人化」社会における つながり と協同組合運動：首都圏生活クラブ生協の取り組みから」担当、pp.162-187)

藤原書店編集部編『われらの小田実』藤原書店、2013年(共著、「「難死の思想」と現代」

担当、pp.276-297)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
とくになし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

道場 親信 (MICHIBA Chikanobu)

和光大学・現代人間学部・准教授

研究者番号：21530576

以上。